

公立大学法人兵庫県立大学経営審議会（平成29年度・第21回）議事録

- 1 日 時 平成29年10月23日（月）
午後1時30分から午後3時00分
- 2 場 所 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-2 人と防災未来センター東館内
兵庫県立大学神戸防災キャンパス大会議室

3 出席者

- | | | | |
|-----------|-------|-----------|-------|
| (1) 理事長 | 井戸 敏三 | 学長兼副理事長 | 太田 勲 |
| 副理事長 | 伊藤 聡 | 理事兼副学長 | 浅田 尚紀 |
| 理事兼副学長 | 高坂 誠 | 理事兼副学長 | 内布 敦子 |
| 理事兼事務局長 | 戸田 康 | 理事（非常勤） | 中西 均 |
| 理事（非常勤） | 尾野 俊二 | 委員（外部有識者） | 池野 忠司 |
| 委員（外部有識者） | 井上 明久 | 委員（外部有識者） | 井上 琢智 |
| 委員（外部有識者） | 井卷 久一 | 委員（外部有識者） | 大橋 忠晴 |
| 委員（外部有識者） | 藤浪 芳子 | 副学長 | 山崎 徹 |
| 監事（非常勤） | 中瀬 憲一 | 監事（非常勤） | 安川 文夫 |

- (2) 欠席者
委員（外部有識者） 南 裕子

4 報告事項

- (1) 学部再編について
事務局から、学部再編の検討状況、今後のスケジュール、再編に伴う教員採用方針などについて、資料に基づき報告があった。
（委員からの主な意見）
- ・ 文理融合型の新設学部が授与する学位名はどの様な名称を想定しているのか。例えば、理系の色彩が強い学位名の場合は、専門委員による審査の際の教員構成にも関わる。
 - ・ 再編学部のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは、具体的に受験生や学生へのアピール、アンケートを実施するときに必要なもので、早期に作成してほしい。
 - ・ 英語力だけではグローバル人材とは呼べない。例えば、大学内でグローバルを経験できる寮生活を通じた外国人学生との交流、企業の海外事務所でのインターンシップの実施など、英語力にプラスする何かを大学も学生も考える必要がある。
 - ・ 学部名称は、学生に分かりやすい名称にするとともに、卒業生を送り出すときに企業が採用したくなる、企業にとっても分かりやすい名称、学部の内容が分かる名称にしてほしい。

- ・ 文理融合型学部の入学試験は、人文社会系、理系も考慮した入学試験を検討しているのか。
- ・ 教員採用は、外国人に対しても公募する予定か。今後、英語による教育を考えるとときに外国人採用は重要になる。
- ・ グローバルと情報科学を学んだ人材が不足している。企業の海外展開においては、全てグローバルスタンダードで仕事ができる人材が欠かせないので、学部再編は県立大学の将来にとって重要なキーファクターになる。
- ・ AIやビッグデータへの対応だけではなく、将来、その先までも対応する学部にしていく必要がある。また、インターナショナルとグローバルは異なり、企業界は、世界的に分業を行うグローバル社会であることも考慮し、カリキュラムを検討してほしい。

(2) 事務局組織の改編について

事務局から、学部再編に係る事務局組織の改編概要、組織規程の改正について、資料に基づき報告があった。

(3) 第1回総合運営会議の開催結果について

事務局から、兵庫県と行った総合運営会議の概要、主な質疑内容について、資料に基づき報告があった。

(4) 公立大学法人兵庫県立大学における平成28年度取組に対する評価結果について

事務局から、兵庫県公立大学法人評価委員会から送付された平成28年度取組に対する評価結果について、資料に基づき報告があった。

5 その他事項

(1) 平成29年度経営審議会開催予定について

事務局から、平成29年度経営審議会開催予定(次回12月18日、法人本部)について、説明があった。

(2) 大学の運営全般における委員からの主な意見

上記のほか、委員から以下の意見があった。

- ・ 新たな改革を検討していることは理解するが、教職員の意識改革や既存の教育内容はどのような状況か。
- ・ 大学を卒業しても企業で再教育しなければならない現状なので、県立大学を卒業すれば即戦力となり、すぐに実社会で活躍できる人材の育成をめざしてほしい。

このほか、審議に先立ち、兵庫県大学課から、県立大学の運営費等に対する県負担と交付税措置の状況について、資料に基づき説明があった。

以上